授業科目名・形態	助産学実習Ⅱ（助産過程の実践・地域の助産活動） 実習	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	工藤 優子 他	実務経験の有無	有	開講期	4 年前期・後期
科目ナンバリング	N5-4023m				

【授業の主題】

医療施設の産科外来における助産師の役割の理解を深め、受け持ち継続事例の健康診査と妊娠期の助産過程を実践する。また、出産準備教室を企画・開催し、親となる人への支援について理解を深める。助産師の業務には、助産所という経営体の管理運営責任者としての業務がある。助産所の管理・運営の基本的知識をふまえて、実習を通して助産所の特徴を理解し、業務・管理・運営業務、医療連携を学び、併せて助産の望ましいあり方を考える。

【到達目標】

1. 継続事例の妊娠期の助産過程を実践できる。
   1) 妊婦の健康診査・経過診断・健康生活診断と指導者の助言のもとに保健指導ができる。
   2) 妊娠期の健康教育のあり方を理解することができる。
   3) 正常な経過からの逸脱を予測し、予防することと緊急時の対応について理解できる。
2. 出産準備教室を企画・開催することができる。
3. 助産所の特色、業務・管理・運営業務、医療連携を理解することができる。
4. 専門職としての役割・責務を認識した行動を理解することができる。
   1) 対象を尊重した態度を学び、ケアが提供できる。
   2) 母児の生命の尊重、助産の倫理について考えることができる。
   3) 助産所における助産業務を理解できる。

【授業計画・内容】

1. 継続事例として、初産婦 1 例を妊娠中期から産褥 1 ヶ月健診まで受け持つ。
2. 妊娠初期・中期・後期の妊婦の妊婦健康診査、保健指導案作成と保健指導を実施する。
3. 施設における母親教室の見学および出産準備教室の企画・運営の実施。
4. 助産所実習を通して、助産所の特徴の理解と業務・管理・運営業務、医療連携を学ぶ。

＊その他の計画の詳細は、別途実習要項を参照。

【授業実施方法】

臨地実習

【事前・事後学習】

レポート作成、課題学習、事例の妊娠期及び産褥期における助産過程の実践の記録等 10 時間程度の自主学習を行うこと。

【主な関連する科目】

助産学概論、基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、女性の健康支援、助産管理論、公衆衛生看護技術論

【教科書等】

助産学講座 1～8、医学書院

【参考文献】

適宜提示する

【成績評価方法】

事前学習 10%、実習評価 40%、実習記録（レポートを含む）40%、実習への取り組み等 10%とし、総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

助産師としての実務経験を踏まえ、実際の臨床における状況を重視し、受け持ち対象に対する助産ケアの理解が深かまるように指導している。

【学生へのメッセージ】

受け持ち継続事例や出産準備教室等で出会う妊婦の大切な妊娠期にかかわります。助産学実習Ⅰと時期が重なり、実習内容も多岐にわたりますが、各学習の機会を大切にし、互いに協力し合いながら有意義な実習にしましょう。